日本の「ひとり」史 簡略版

生活総研

1970年代 | 1980年代 | 1990年代 | 2000年代 | 2010年代 | 2020年代

1「ひとりなんてありえない」

みんな同じ＝豊かといった価値観。「ひとり」は社会からの外れ者。

2「ひとりもありかも」

組織・制度から逸脱し個性を求めて「ひとり」を謳歌する人が脚光を浴びた。

3「ひとりでいるしかない」

バブル崩壊後、経済的に厳しい状況下で「ひとり」は不安な状況になり、社会問題にもつながった。

4「ひとりでも気にならない」

「おひとりさま」商品・サービスが充実し、「ひとり」行動がしやすくなる。コロナ禍でさらに加速。

これからは?

「ひとり」にかかわる事象・コンテンツ

- 新・三種の神器（60年代半ば～）
- **一億総中流**
- 『8時だョ！全員集合』視聴率50%超(71)
- ウーマンリブ(70)
- **独身貴族**
- フリーター(87)
- バックパッカーブーム
- 家庭内離婚(86)
- DINKS(88)
- フリーランス
- ひきこもり(94)
- パラサイトシングル(97)
- バツイチ(92)
- 負け犬（04）
- 『無縁社会』(10)
- **ぼっち**
- リア充／非リア充(07頃)
- 婚活(09)
- **「おひとりさま」**流行語ノミネート(05)
- ドラマ『孤独のグルメ』(12)
- **ソロ活**
- ひとりカラオケ(11)
- ひとり焼肉(18)
- ソロ充(12頃)
- 書籍『ソロ活女子のススメ』(19)
- セルフマネジメント
- ソロキャンプ(20)

■みんなが同じものに向かう意識　■ひとりに向かう意識　■ひとりに向かう意識（ネガティブなもの）

社会・経済事象 法制度・働き方

- 日本列島改造論(72)
- **モーレツ社員**（69頃～）
- **バブル景気**(86~91)
- 「イッキ！イッキ！」流行語(85)
- 「24時間戦えますか」流行語(89)
- 男女雇用機会均等法施行(86)
- 山一証券・北海道拓銀破綻(97)
- **就職氷河期**
- リストラ
- 派遣切り(09)
- クラウドソーシング(08頃)
- 東日本大震災(11)
- 女性活躍推進法(16)
- 働き方改革(19)
- **コロナ禍**(20)
- リモートワーク普及(20)

メディア・情報機器

- コードレス電話(88)
- Windows95(95)
- iモード(99)
- mixi(04)
- **iPhone3G、Facebook、Twitter**(08)
- Instagram(10)
- LINE(12)
- TikTok(17)
- **デジタルデトックス/SNS疲れ**

日本の「ひとり」史 簡略版 解説

生活総研

1 「ひとりなんてありえない」時代

【～1970年代】

日本の戦後から70年代までは、みんなで団結してモーレツに働き、新・三種の神器（カラーテレビ、クーラー、自動車）など家財を少しずつ充実させながら暮らし、「一億総中流」ともいわれるように、人並みでありたい意識によって社会が運営されていました。みんな同じであることが当たり前で、「ひとり」は異端児・外れ者のような意識でした。

2 「ひとりもありかも」時代

【1980～1990年代前半】

87年の「フリーター」という言葉の登場が象徴するように、80年代以降はみんなと差別化した個性を求める人たちが増えてきます。女性の社会進出とともに、「個」を前提とする家族関係が模索されるなか、「独身貴族」という言葉も誕生。まだまだ根強い会社・家族など集団の力から脱したオピニオンリーダーとしての「ひとり」が生まれてきました。

3 「ひとりでいるしかない」時代

【1990年代後半～2000年代】

90年代後半には、バブル経済崩壊の影響で名だたる大企業の倒産、人員のリストラなど会社の構造変化が起こります。「ひきこもり」「ぼっち」など孤立した「ひとり」が注目されるようになりました。その反動で、個が確立できている大人女性を肯定する「おひとりさま」、30歳超の子なし未婚女性が自嘲的に使用する「負け犬」という言葉も出現しました。

4 「ひとりでも気にならない」時代

【2010年代～】

スマホやSNSの普及、ゲーム・動画などの拡充で人びとは「ひとりでいられる」ようにもなってきました。10年代以降に様々な「おひとりさま」商品・サービスが登場し、「ソロ活」として活性化。自分のことは自分で行う「セルフ意識」の広がり、コロナ禍のディスタンスが必要な期間を経て、SNS疲れも相まって「ひとりでも気にならない」時代になりました。